

週間展望・回顧(ドル、ユーロ、円)

July 2, 2021

## 6月の欧・米金融政策会合議事録に注目

- ◆ドル円、6月 FOMC 議事要旨でのテーパリング議論に注目
- ◆米 6 月 ISM 非製造業景気指数や中国 6 月消費者・生産者物価指数などにも注目
- ◆ユーロドルは、6 月 ECB 理事会議事録でのテーパリング議論に注意

### 予想レンジ

ドル円 109.00-113.00 円  
ユーロドル 1.1600-1.2100 ドル

### 7月5日週の展望

ドル円は底堅い展開か。パウエル FRB 議長が 2023 年末までのゼロ金利継続の理由にしている米国の雇用情勢が回復基調にあることから、6 月の FOMC 議事要旨では、タカ派の見解を見極めることになる。パウエル FRB 議長は、6 月 16 日の FOMC 後の記者会見では「お望みならば、今回の会合をテーパリング（資産購入の段階的縮小）について話し始めることを話す会合だと考えてもらって構わない」と述べた。タカ派の米連邦準備理事会（FRB）高官は、2022 年のテーパリング開始や利上げ開始を主張しているが、議長自身も来年 2 月の任期満了を控えている。8 月 26-28 日のジャクソンホール会合でテーパリングを示唆するのではないかと憶測も流れており、注意していきたい。2013 年 5 月にバーナンキ第 14 代 FRB 議長がテーパリング（資産購入の段階的縮小）に言及した「テーパー・タントラム」の時も、早期テーパリングを主張していたのは、当時のパウエル FRB 理事だった。

ドル円の上値を抑える要因としては、米中対立激化を受けた極東の地政学リスク回避の円買い圧力や米国の過去最大規模の「双子の赤字」への警戒感などが挙げられる。さらに、米国は 8 月 1 日に法定債務上限が復活するが、イエレン米財務長官は、連邦政府の債務上限を早急に引き上げるか上限適用を停止するよう議会に要請するとともに、このままでは 8 月中にも米国が債務不履行（デフォルト）に陥る深刻なリスクがあると警告している。また、バイデン米政権の大規模財政支出に関する議会での審議が難航していることも、「財政の崖」への警戒感を高めており、ドルの上値を抑える要因となりつつある。

また、米 6 月 ISM 非製造業景気指数では、米国のサービス業の景況感を見極め、中国の 6 月消費者・生産者物価指数では、原油や鉄鉱石などの価格上昇を受けた中国のインフレ状況を見極めることになる。

ユーロドルは、6 月の欧州中央銀行（ECB）理事会の議事要旨でパンデミック緊急資産購入プログラム（PEPP）の減額、テーパリングに関する協議内容を見極めることになる。また、ユーロ圏での新型コロナウイルス変異株の感染拡大はユーロ売り要因だが、英国と欧州連合（EU）との北アイルランドを巡る「ソーセージ戦争」が 3 カ月の停戦で合意したことは、ユーロ買い要因となる。ユーロ圏 5 月の小売売上高や独 7 月の ZEW 景況指数にも注目している。

### 6月28日週の回顧

ドル円は、米 6 月の雇用関連指標の改善を受けて、110.42 円から 111.60 円台まで上昇した。複数のタカ派の FRB 高官が早期のテーパリング（資産購入の段階的縮小）開始や 2022 年の利上げの可能性に言及したことも、ドル買い要因となった。ユーロドルは、米連邦準備理事会（FRB）と欧州中央銀行（ECB）とのテーパリング開始時期に対する思惑が台頭。1.1945 ドルから 1.1840 ドル割れまで下落した。ユーロ円は、131.28 円から 132 円半ばまで反発した。（了）